

津波対策完了について神戸市からのお知らせ

神戸市の高潮・津波対策の取り組みについて説明いたします。

神戸市の高潮対策は、2015 年度に完成しています。また、津波対策は、2011 年の東日本大震災後、1000 年に 1 度の津波に対する『減災』への考え方を導入して、高潮対策の施設を補強・改修して 2022 年度に完成しました。

区別に作成したパンフレット（人が住むところは浸水しないと想定されます）の津波浸水想定図（対策前と対策後）を比較していただくと、神戸市内の居住地域は 1000 年に 1 度の津波（南海トラフ巨大地震により発生すると想定される津波）でも浸水しないと想定されます。

● 神戸市の津波対策〔1,000 年に 1 度発生する可能性のある津波に対する備え〕

⇒2015 年度より津波対策に着手し、2022 年度に完成しています。

南海トラフ巨大地震津波浸水想定図（最大クラスの津波による浸水想定図）は、避難を中心とした津波防災対策を進めるため、津波防災地域づくりに関する法律に基づき兵庫県が作成・公表した（平成 2014 年 2 月）ものです。この浸水想定図では、神戸市域でも浸水する（1m未満の水深）ことが予測されました。

このため、神戸市ではより安全・安心を目指し、防潮堤等の嵩上げや洗堀防止、目地補強の対策を 2015 年度から着手し、2022 年度に完成しました。対策により神戸市内の居住地域は浸水しないと想定されます。対策後の津波浸水想定図（神戸市作成）を区別に切り取ったものが、区別チラシに示す対策後の図面です。

また、さらなる安全を目指し、鉄扉を遠隔操作で閉鎖する対策を 2018 年度より開始しています。

津波浸水想定図作成時（兵庫県）条件に対する神戸市の追加対策

条件項目	兵庫県	神戸市の対策
防潮堤等の沈下	沈下考慮	対策①（POINT01）：防潮堤等の嵩上げ たとえ沈下しても十分な高さが確保できるように防潮堤や鉄扉等の嵩上げを実施
津波による洗堀	洗堀などで破堤（防潮堤破壊）	対策②（POINT02）：洗堀防止 津波により洗堀され破堤しないように周辺を補強
目地の開き	目地に隙間ができ浸水	対策③（POINT03）：目地補強 防潮堤がずれ目地に隙間ができないように擁壁の継ぎ目を分厚く補強
鉄扉の閉鎖	一部閉鎖	新技術（遠隔操作）を導入 何時でも、どこからでも鉄扉閉鎖できる

● 神戸市の高潮対策〔100 年に一度発生する可能性のある高潮に対する備え〕

⇒1965 年度より高潮対策に着手し、2015 年度に完成しています。

具体的には、神戸港の満潮時に伊勢湾台風（1959 年（昭和 34 年）台風 15 号）級の台風が神戸港に高潮をもたらす典型的なルート（室戸台風、1934 年（昭和 9 年）のルート）で接近した場合に発生する高潮を想定して防潮堤等を整備しています。高潮による浸水はしないと想定されます。

●関係省庁ホームページ

●国土交通省 津波防災地域づくりに関する法律について

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/point/tsunamibousai.html>



●国土交通省 津波浸水想定の設定の手引き

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/point/content/001621078.pdf>

